

公益財団法人 大阪府国際交流財団

事業名	教育機関留学生担当者防災ワークショップ			
実施期間	2013年11月27日(水)			
場 所	マイドームおおさか 8階 第6会議室			
参加者	外国人留学生	地域住民・企業等	大学関係者・自治体等	合計
	0 名	0 名	33 名	33 名

<実施内容>

災害時の留学生支援体制を考えるためのワークショップを11月27日(水)マイドームおおさかにて、大学や専門学校の留学生担当者をはじめ行政や国際交流協会等幅広い分野の方々、33名の参加を得て開催しました。東日本大震災時に留学生支援に奔走された、東北大学国際交流センター 教授 末松 和子 氏を講師にお招きし、『東日本大震災から学ぶ留学生支援-危機管理と支援の充実化に向けて-』という演題で体験をふまえたご講演いただき、その後、府内の留学生支援の現状や課題について意見交換を行いました。



講師からは震災当時の様子や被災留学生の意識や行動パターンなどの実態調査結果の分析、さらには、現在他大学とも連携して検討を進めておられる「災害時の国際交流危機管理ハンドブック」について具体的にお話しいただきました。

母国がチャーター便を出すとの嘘のチェーンメールで新潟空港に大集合した留学生の帰国支援に苦労したお話しや、多人数の留学生が地域の避難所を突然訪れ軋轢が生じ、日頃からの地域との交流の大切さを痛感したというお話しには、参加者から「臨場感あふれる実体験に基づく貴重な話が聞けて良かった」という趣旨の感想が多く寄せられています。

意見交換会では、安否確認や防災研修の現状と課題、解決策について活発な意見交換をしていただきました。参加者からは「様々な話が聞けて有意義でした」という意見をもらいました。

OFIXでは、今後とも関係機関との連携を図り、留学生をはじめとする外国人の活動環境整備に努めてまいりたいと考えています。

<参加者からのコメント>

〇〇さん

実際に体験されたときの状況が聞けたことは、とても有意義だった。それぞれの機関が別々に取り組んでいるノウハウを共有したり、協力しあうことの重要性を強く感じた。

〇〇さん

安否確認については、課題解決方法がはっきりせず、今後も検討しなければと思いました。